

学校法人東放学園
東放学園音響専門学校 殿

東放学園音響専門学校
学校関係者評価委員会

2022(令和4)年度 学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価委員

〔学校運営に関する有識者〕(委員長)

佐久間 義彦	学校法人東放学園 元理事 東放学園専門学校、東放学園音響専門学校、元校長 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 顧問 一般社団法人 全国放送派遣協会 顧問 前専務理事
--------	---

〔就職先の企業および業界関係者〕

松井 繁明	株式会社 IMAGICA Lab. 経営管理本部 総務部長 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 理事
-------	---

〔高校の教員〕

寺島 淳一郎	学校法人 守屋育英学園 関東第一高等学校 進路指導部長
--------	-----------------------------

〔卒業生〕

橋本 亜希子	株式会社 ビーイング 宣伝本部 チーフプロモーター 〈2007 年 音響技術科 卒業〉
--------	--

2. 事務局

〔学校教職員〕

酒井 努	東放学園音響専門学校 校長
和田 一夫	同 教務教育部 部長
阿部 純也	同 学務管理部 部長(事務局)
小山内 宙	同 音響技術科 学科主任
佐野 僚	同 音響芸術科 学科主任
勅使川原 美鈴	同 学務管理部(事務局補佐)

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

- ①2022 年 11 月 22 日(水)16:30～18:30 東放学園音響専門学校 清水橋校舎 2 階 2S1 教室
- ②2023 年 2 月 3 日(金)16:30～18:30 東放学園音響専門学校 清水橋校舎 2 階 2S1 教室

4. 学校関係者評価結果

評価基準

4	適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
3	ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
2	対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
1	全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

「2021 年度 東放学園音響専門学校 自己評価報告書」に基づき審議、検討し、以下の通り報告する。

I. 重点目標について

【組織力強化・向上】	
コメント	評価
・女性職員の採用が増えたことは今後の組織力 UP につながり良いと思う。それぞれの両性の特性を生かすよう検討を望む。 ・学校の目標や計画の掲示、教職員の専門能力の明示、組織レベルでの貢献度、コミュニケーション力等をチェック項目で可視化し、強固な組織力UP、ブランディング力UPする予定であったが、各部署／担当者の業務過多により、苦戦したとのことだが、掲げた事は 100%でなくとも、途中経過であっても示す事が重要である。結果(成果)を見せられれば良いが、それが難しい時は解決／対応した項目と、引き続きの対応項目に分けて可視化出来る様な対応を進めるべきである。前に進んでいる事をぜひアピールして欲しい。	4

【ハイブリッド教育の実現に向けた授業づくり】	
コメント	評価
・WITH コロナでリモート授業の良さと予期せぬ局面を体現しているが、教育にとってメリットのあるメディアでもあるので充分の分析と研究を継続されたい。またメタバースの認識を広く持つことも重要である。 ・コロナ禍にて、オンライン授業、対面授業の対応は順調に進めて頂き、安定した実績を培ってこられた。今後は学生各々の素養にも向き合い、さらによりよいシステム構築を目指して欲しい。オンライン・オンデマンド授業に強い学校である事を全面に掲げて、自信をもって学内に対しても、学外に対してもアピール頂きたい。 ・国の助成金を利用したプロジェクトを行ってみてはどうか。 ・オンライン授業でなければ出来ないことをいくつ掲げられるかが重要である。	4

【「職業実践専門課程」申請】	
コメント	評価
これからは掲げた内容の維持が重要になるので、取り組み(対応)に関してもホームページ等も効率的に活用し、外部へアピールして欲しい。	4

【業界スキルの検証とそれに伴う新規カリキュラムの検討】	
コメント	評価
・日本ポストプロダクション協会、日本音楽スタジオ協会等、業界の資格認定試験は出来れば協会や業界から講師を派遣してもらうのはどうか。また試験問題は業界のエッセンスが豊富に存在しているのでカリキュラムとの再検討を望む。シラバス上の記載ももっと目的性を強調すべきである。 ・コロナ禍の中で、エンターテインメント業界は激しく業態変更している。スマホを軸に、インターネットの利用に慣れた学生達は日々、情報を吸収している。業界関連との企業と連携して研修実施は良い事だが、デジタル化の波は想像以上に速いので、教職員の方々も日々、情報入手や業界との交流を深めて欲しい。重要なのは学校からの(先生からの)学生へのデジタル化への対応とその継続かつスピード感のあるアクションである。例えば、AR/VRと東放、メタバースと東放みたいに関連づけるアクションが少しでもアピール出来れば、学生の興味も増し、何より学校としてのブランド力は高まるだろう。 ・エンターテインメント業界の専門学校を希望する学生の保護者は業界が分からない為、子ども任せの印象がある。資格などを重視するよりも、学校の雰囲気を見てもらうために、一緒に学校見学に行くよう薦めている。	4

II. 評価項目別取組状況について

基準1. 教育理念・目的・人材育成像

コメント	評価
・女性職員の多数採用は良いことだが教員も女性を増やせば良い。学生に授業で接することで新しい展開もある。 ・理念や目的、人材育成像に関しては、既に掲げられている、①関連業界との連携強化、②保護者会において理解しやすい説明の実施、③教育課程編成委員会、並びに学校関係者評価委員会から出た意見を軸に、改善、並びに継続的な実施を心掛ける事が重要である。	4

基準2. 学校運営

コメント	評価
・昨年度に引き続き、学校運営は柔軟にかつ、タイムリーに対応している。特にコロナ禍の中で学生の支援は引き続きお願いしたい。	4

基準3. 教育活動

コメント	評価
・通信教育ではないオンライン授業の特性はまだ評価が定まらないが、全教職員が新しい教育のシーンとしてきっちりと受けとめて欲しい。評価結果では検討をしているようだが功罪半ばのところを再検討の余地ありか。 ・コロナ禍の中においても、オンライン授業／対面授業の切り分けはしっかりなされていて、運用的には問題はない。目標達成チェックシートの導入による達成度の可視化は出来ているが、そのフィードバックはきちっと実施して欲しい。いわゆる1on1の確実な実施が、学生にも、教職員にも必ずプラスになる。 ・目標達成チェックシートは見やすく、サイズ感もちょうど良いと思う。ただし、シートを常に携帯し、講師が確認印を押していると、数カ月で紙がへたるのではと思うが実際はどうなのだろうか。耐性のある紙を使うとか、費用がかかるがアプリを開発するのはいかがだろうか。 ・学生の先生の指導についてのリアクションを授業へ反映できる仕組みを取り入れると良いのではないか。 ・精神面で不安定な方が増えているのは、リモートの影響なのか、指導の問題なのか、親のプレッシャーなのか、世の中やコロナ禍が影響をしているのかの分析が必要である。 ・高校でもカウンセラーの需要が増えてきている。同じように入学前から症状を抱えている生徒が多い。 ・教員とカウンセラーがすり合わせをすることが重要ではないか。最終的に学生にとって頼りになるのは教員であることを忘れずコミュニケーションを密にとっていっていただきたい。	4

基準4. 学修成果

コメント	評価
・インターンシップは学校側の姿勢が問われる。多少、従来の企業と学生の「お見合い」の色あいを脱しても前向き(就職)に検討すべき。学生の社会(就職)意識を十分に与えるべきである。 ・キャリアサポートセンター等での継続的な支援は実施して頂いているが、WITH コロナの時代は資格、免許の取得率向上も大変重要である。本人の意識づけだけでなく、卒業生が在籍している企業訪問や、業界動向の共有会のようなものを実施する事も学生の興味を引くという意味からは良いと思うのでぜひ、検討して頂きたい。企業へのインターンシップの協力要請、リモートでのOB訪問／OG訪問も有効である。 ・社会的評価関連のアピールについてだが、会議の席で議題に上った学校パンフレットについて、ある学校を例にあげたが、情報デザインに長けた職員が数人いらっしゃる、外注もしているらしい。 ・インターンシップを実施しているのは、本人の特性を早くに見出し、独り立ちをしてほしいからである。 ・学生がインターンシップを行って企業に入ることを目的としているのか、2年間専門知識を得るために専門学校にきているのか、1on1で対応し早期に本人の意向を見出してあげるべきである。	4

基準5. 学生支援

コメント	評価
・企業側のオンライン面接は今後も続くのであればその対応策（模擬面接講座）でその概要を伝えてほしい。結局はライブの面接が基本ではあるが。 ・オンライン就職相談方法の確立を引き続きお願いしたい。オンラインでも対面でも学生の不安を無くす、興味を持たす事が重要である。就職活動を行う上での必要な知識や情報は Google Classroom を利用されているとの事なので、その効果や状況をきちっと把握しつつ、効果的・効率的に進めて頂きたい。コロナ禍の中、学校長より学費の支払いに關しての臨機応変な対応をしている、とのコメントは学生に（保護者）に寄り添う対応で素晴らしい。 ・年金セミナーを実施されているとの事だが、きっちり年金を払わないと・・・ではなく、自分の人生のシミュレーションの方が食いつきは良いと思う。 ・3ヵ月や半期毎に、保護者や学生に向けて、何を求めているか確認をするのはどうか。意見をいただきタイムリーに対応することで、ドロップアウトを防げるのではないかな。	4

基準6. 教育環境

コメント	評価
・授業に必要な機材はプロレベルと同等の物は用意されており、リモート関連の機材も過不足は無い。但し、映像／音声機材は日々進化しており、教職員の方は設備は無くとも、最新の状況を学生に話しが出来るレベルを保って欲しい。出来れば、最新機材の導入（最近は安くなっている事もある）計画は綿密にたて、「〇〇〇の最新機材を導入！」のような形でホームページやインスタ等に上げる事は非常に効果的である。合わせてコロナ禍であるからこそ、コンサートホール、ポストプロダクション、撮影現場、スタジオ等、生を体験出来る機会を可能な限り設けて、学生の意識レベルを上げて欲しい。弊社への見学もそうだが、生の現場を見る事の意義は大きい。 ・海外研修がコロナ禍のため中止しているとの事だが、慎重になるのは高校でも同じだが、国内旅行は回復してきており、海外からの受け入れも始まっている昨今、そろそろ開始しても良いかもしれない。 ・防災訓練だが、ライブハウスで火災発生等のシミュレーションで学生に参加させるのも良いかもしれない。 ・防災館などを利用してはどうか。	4

基準7. 学生の募集と受入れ

コメント	評価
・重厚な紙によるパンフレットを排してソーシャルメディア(Web)に変換する時期だと思われる。紙パンフは最小限にとどめ(父兄向け資料)、予算を他に廻すべきは賛成である。 ・一点、昨年も申し上げたが、学校案内/スクールガイド等、紙ベースでのカラーで立派なパンフは不要である。早々に紙は必要最低限とし、QRコードを踏まえたWEBダウンロード形式に切り替えるべきである。学生は(保護者は)パンフは全て見ない。今は必要な情報は自分で見に行く時代である。学生の興味の引くようなDL形式にすれば、学生は自分の欲しい情報を勝手に見に行く。何より学生が見に行ったサイトの状況は学校側でもタイムリーに把握出来、改訂・更新・見える化も簡単である。デジタルを有効活用した学校経営をお願いしたい。学校が変わった!という見せ方に繋がる。 ・本校(高校)では様々な校内冊子のデジタル化を次年度から行う予定である。製紙の値段が上がっているとの事で、デジタル化した方がコストダウンになるかもしれない。 ・コピーライターの起用などを検討してはどうか。 ・教室内のレイアウト、掲示の印象が弱すぎる。最初に見た時に興味をひくような見せ方の工夫をすべきではないか。 ・高校の部活動の強豪校ののぼりなどのように、見た瞬間に学生たちが惹かれるものがあつたほうが良い。	3

基準8. 財務

コメント	評価
・特になし	4

基準9. 法令等の順守

コメント	評価
・当該委員会では行政側の要望にも十分すぎるほどの回答をしている。 ・自己評価、学校関係者評価の体制もしっかり構築されており、適正な学校運営をされている。	4

基準10. 社会貢献・地域貢献

コメント	評価
・ボランティア活動は今後就職面接でも問われるところである。履歴書にも記入できるようにしてほしい。また単位化をしてほしい。 ・地域貢献は大変重要である。社会貢献が出来る事は社会に出ても必ず自信につながる。ただ単に地域貢献をするだけではなく、目的と成果を踏まえた実施をお願いしたい。渋谷区というブランド区にある学校なので、その様子や中身をホームページやインスタ等で案内出来れば、より学校のブランディング力は高まるだろう。 ・東京都社会福祉協議会とのコラボレーションの進展を期待している。	4

Ⅲ. 所感

コメント
・大学がカリキュラム等をはじめ、専門特化して来ている。世の中のサイクルが速くなり需要が変化している。専門学校の特性は時代の変化、要望に先んじて学科を起し、人材をマッチングさせるところにある。多少フライング気味でも時代の先取りをした人材を輩出させていくべきだ。学園創設のころにはそんなベンチャーに満ちた空気で満ち溢れていた。創立 50 年の歴史を持つ学園には「TOHO スピリッツ」があると信じている。学校法人として認可される前から脈々と流れているこの精神を大切にしたい。 ・コロナ禍の中、色々と学校関係者の方々が知恵を絞ってかつ、学生に寄り添った対応をして頂いている事に感謝する。これからは同じことを繰り返しても、学生は集まってこない。まして少子化への突入である。物価高／光熱費高騰と学校経営にはマイナスの事ばかりがこれから押し寄せてくる。こんな中でも学園は変わった！と思わせるアクションがこれからは非常に重要である。学生、保護者、OB／OG、学校関係者にそう思わせる対応をし続けて欲しい。簡単ではないが、必ず効果はある。我々も知恵を絞って行きたいと思っているので、引き続きの学校経営をお願いしたい。 ・高校の授業で Society4.0、5.0 の話をしたが、学生の反応は薄かった。最先端を売りにするのはいいが、アピールしすぎると、学生は難しく感じてしまい避けてしまうかもしれない。 ・音響業界はとても息が長く、フリーランスのエンジニアが定年後も活躍するなど最先端だけでない魅力も伝えていくのが大事ではないだろうか。 ・若い方のほうが SDGs に敏感であるため、学園として SDGs をもっと意識をして取り組むべきである。

以上